

令和5年度 青森市平和・防災学習事業 報告書



令和5年度青森市平和・防災学習事業任命式にて

青 森 市

目次

1 令和5年度青森市平和・防災学習事業 実施概要	1
(1) 趣 旨	1
(2) 派遣先	1
(3) 派遣者	1
(4) スケジュール	1
①任命式・事前研修.....	1
②釜石市派遣.....	1
③体験報告	1
2 活動の記録	2
(1) 任命式・事前研修	2
(2) 釜石市派遣.....	4
(3) 体験報告.....	7
○平和と防災を考え、受け継ぐ集いで体験報告.....	8
○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想	17
○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した中学生の感想	18
3 活動を振り返って	20
○釜石市派遣中学生 10名の感想.....	20

1 令和5年度青森市平和・防災学習事業 実施概要

(1) 趣 旨

先の大戦により戦争被害を受け、また、東日本大震災により甚大な被害を受けた東北の都市へ本市の中学生を派遣し、平和の尊さと地震等の災害に対する防災対策の大切さへの理解を深めます。併せて、その体験を小学生や中学生に伝えるとともに、広く市民に発信することで、市民の平和意識、防災意識の醸成を図ることを目的に実施します。

(2) 派遣先

岩手県釜石市

(3) 派遣者

古川中学校	1年 平野陽留昂	1年 鳥谷部凛衣
沖館中学校	1年 小倉大翔	1年 熊谷明歩
油川中学校	1年 奥崎莉生	1年 三上瑠那
西中学校	1年 岩渕蓮時	1年 橋本悠哩
東中学校	1年 三上飛真	1年 福士小和

※市内全域での平和意識、防災意識の醸成のため、派遣校は「持ち回り」

※派遣校5校のうち1校の教員1名及び青森市総務部総務課職員1名が引率

(4) スケジュール

①任命式・事前研修

- 6月23日(金) 任命式、事前研修会【青森市役所本庁舎】
- 7月28日(金) 青森市平和祈念式典への参加【アウガ】
青森市内の平和関連施設の見学【青森空襲資料常設展示室 外8か所】
- 7月29日(土) 避難所運営訓練への参加【東中学校】

②釜石市派遣

8月8日(火)～8月10日(木) 釜石市派遣(2泊3日)

③体験報告

- 10月3日(火) 平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験報告、修了証書授与
【油川中学校】
- 10月下旬 文化祭での体験発表【古川中学校、沖館中学校、西中学校、東中学校】

2 活動の記録

(1) 任命式・事前研修

◆任命式 [6月23日(金) 青森市役所本庁舎]

西市長から青森市平和・防災学習事業の派遣者に任命されました。その後の懇談では、西市長、工藤教育長、そして引率の元木教諭が同席する中、西市長から励ましの言葉をいただき、生徒一人ひとりにこの事業への抱負を尋ねられました。私たちは本事業についての意気込みを伝えました。



◆事前研修 [6月23日(金) 青森市役所本庁舎]



事前研修会では、青森市の平和と防災の取組について学びました。平和に関する研修では、映像資料等で青森空襲の悲惨さを知り、防災に関する研修では、危機管理課の伊藤主幹から、被害想定や取組内容、災害に備え一人ひとりができること等について説明をしていただきました。

◆青森市平和祈念式典への参加 [7月28日(金) アウガAV多機能ホール]



青森市平和の日である7月28日に開催される平和祈念式典に参加しました。式典では、壇上で折り鶴を献上し、出席した会場の皆様と、戦争の被害者への追悼と平和への願いを共有しました。南中学校合唱部による追悼合唱の歌声は深く心に響きました。



◆青森市内の平和関連施設の見学〔7月28日（金） 青森空襲資料常設展示室 外8か所〕



青森市民図書館歴史資料室の工藤室長に講師となっただき、市内の平和関連施設を見学しました。青森空襲資料常設展示室では写真や図で青森空襲の被害について学んだほか、リクス・セッションホール青森内にある初代平和観音像等も訪れ、今まで知らなかった青森市に残る戦争の遺産に触れる貴重な機会となりました。



平和関連施設の見学内容

- ①青函連絡船戦災の碑
- ②青森空襲資料常設展示室（中央市民センター）
- ③諏訪神社
- ④初代青森平和観音像
- ⑤カトリック本町教会の煉瓦塀
- ⑥青森製氷株式会社
- ⑦旧公会堂（現 しあわせプラザ）
- ⑧旧青森銀行本店（現 青森県立郷土館）
- ⑨空襲・戦災都市 青森の碑

◆避難所運営訓練への参加〔7月29日（土） 東中学校〕

原別地域まちづくりを進める会が主催する東中学校避難所運営訓練に参加しました。この訓練は、東中学校と地域が一体となった総合的な防災訓練であり、主催団体の会員、地域消防団、PTA など多くの皆様の協力により、東中学校および近隣の小学校の生徒・児童たちと一緒に、防災に関する様々な内容を体験しました。

避難所運営訓練の体験内容

- ・デジタル受付ワークショップ
- ・段ボールベット組立
- ・AED 体験
- ・火起こし体験
- ・毛布担架作成・体験
- ・ゴミ袋でのポンチョ作成
- ・防災グッズ見学
- ・トイレ維持体験
- ・アルファー化米美食 など



(2) 釜石市派遣

◆出発式〔8月8日(火) 新青森駅〕

新青森駅の一角で出発式を行いました。引率の元木先生、総務課の竹内課長からご挨拶をいただいた後、本事業の関係者、保護者などたくさんの皆様の温かい見送りの中、釜石市へ向けて出発しました。



◆釜石市長表敬訪問〔8月8日(火) 釜石市役所第4庁舎〕



釜石市役所へ訪問しました。平松副市長、高橋教育長、藤井教育部長に温かく迎えていただきました。釜石市の印象や疑問に感じたこと、今後の意気込みを述べたところ、私たちの質問等に丁寧に答えてくださり、最後に市役所玄関前で一緒に写真を撮りました。



◆いのちをつなぐ未来館の見学〔8月8日(火)〕

東日本大震災の伝承施設を訪れ、映像やパネルを通じて震災の出来事や教訓について説明を受けました。実際に津波を経験したガイドさんからの説明を聞いて、私たちは震災がどれほど深刻な出来事だったのか、また、いつ災害が起こるか分からない現実にも備えることの重要性を実感しました。



隣接する釜石祈りのパーク（釜石市防災センター跡地）では、津波の高さを示すモニュメントを見学しました。この場所には、「釜石市防災市民憲章」と刻まれた碑があり、未来の命を守るための「備える」「逃げる」「戻らない」「語り継ぐ」という4つの誓いが記されていることを確認しました。

◆釜石鵜住居復興スタジアムの見学〔8月8日（火）〕



釜石市スポーツ振興課の佐伯主任から、鵜住居地区の震災の被害状況や、ワールドカップ誘致・開催を目指し復興のシンボルとしてスタジアムが建設された経緯、他市等から寄贈を受けた座席「絆シート」の設置、スタジアムの防災対策や裏山への緊急避難場所の整備等について説明をしていただきました。

◆鉄の歴史館の見学〔8月9日（水）〕

釜石市の中学生 10名と合流し、最初お互いに自己紹介を行いました。その後、館内で原寸大に復元された高炉の模型を中心としたシアターを観賞し、ガイドさんから日本初の洋式高炉を完成させるまでの歴史的な経緯や、戦時下の製鉄所の役割、艦砲射撃についての説明をしていただきました。



◆釜石市戦没者追悼・平和祈念式への参加〔8月9日（水） 釜石市民ホール〕



式では、両市の中学生による活動紹介が行われ、青森市の代表3名が、訪問の目的や交流を通じて得たいこと、釜石市での施設見学の感想、そして戦争体験談から学びたいことを述べました。続いて、釜石市の代表1名が、語り継ぐことの大切さと、平和な未来を創造していくことへの誓いを述べ、全員で献花をしました。



◆戦争に関する学習会・釜石市中学生との意見交換 [8月9日(水) 釜石情報交流センター]



ボランティア団体「颯・2000の会」の皆様から、艦砲射撃に関する紙芝居や、実際に体験した方の手記、そして戦争に関する絵本の読み聞かせをしていただきました。続いて、実際に戦争を体験した佐野さんから、当時中学3年生だった戦時下の女学校や日常生活について貴重な体験談をお話していただきました。



引率の元木先生の発案により、両市の中学生混合のグループを作り自己紹介を含めた簡単なゲームを行い、和やかに交流会がはじまりました。釜石市学校教育課の和田主任指導主事が進行役を務め、各中学生が印象に残った研修とその理由、平和や防災についての考えなどを発表し、両市の中学生同士の交流を深めました。



◆釜石市郷土資料館の見学 [8月9日(水)]



釜石市郷土資料館の佐々木館長から、戦争の被害状況などについて説明を受けました。その後、野田市長と藤井教育部長がお立ち寄りくださり、野田市長から、「今回の交流で知り合った仲間と共に、お互いの市に起きた出来事、苦しい経験、悲しい思い出、そして悔しい思い出を風化させずに語り継いでいただきたい。」と両市の中学生へメッセージをいただきました。

◆解散式 [8月10日(木) 新青森駅]



(3) 体験報告

◆平和と防災を考え、受け継ぐ集い [10月3日(火) 油川中学校]

次第

- ①開会のことば
- ②青森市長あいさつ
- ③釜石市長あいさつ(ビデオメッセージ)
- ④釜石市への派遣生徒による体験報告
- ⑤平和・防災学習事業修了証書の贈呈
- ⑥参加者による感想交流
- ⑦平和と防災を考え、受け継ぐ集い
in油川 共同宣言
- ⑧閉会のことば



油川小学校6学年の児童、油川中学校全校生徒及び各中学校代表生徒、地域住民等を対象に油川中学校で開催された報告会では、学習活動を通して学んだ平和の大切さ、災害から命を守る取組の大切さについて発表しました。発表後に、西市長から平和・防災学習事業修了証書をいただきました。油川小学校と筒井・横内・荒川・新城・甲田・油川の各中学校の代表児童・生徒から報告の感想をいただき、最後に、油川中学校の原生徒会長が共同宣言文(下記)を読み上げ、会場の出席者全員で唱和しました。



<青森市平和の日条例(前文)>

青森市は、昭和20年7月28日の空襲によって、多くの尊い生命を奪われた。戦争は、その時存在した生命を奪うだけでなく、その後つながれたであろう生命をも奪うものだという事を忘れてはならない。「青森市平和都市宣言」、「非核・平和のまち宣言」にうたわれている平和への思いを、未来を担う子どもたちに引き継いでいくことは我々の責務である。

ここに、青森市平和の日を定め、青森市が戦火にさらされた悲惨な戦争を忘れず、また、空襲があったという歴史的事実を重く受け止め、後世に語り伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないことを誓い、併せて、世界の恒久平和を願い、平和施策を推進するため、この条例を制定する。



令和5年7月28日 青森市平和祈念式典

<平和と防災を考え、受け継ぐ集い

in 油川 共同宣言>(案)

私たち青森市内全小・中学生は、青森市と釜石市が、平和・防災事業を通して命の大切さや平和の尊さを改めて認識するとともに、世界平和と安心安全な生活を求め、**平和と防災に貢献し、夢と志を持ち挑戦する未来の一員として生きていくこと**を、ここに宣言します。

令和5年10月3日

名前 _____



令和5年6月23日 任命式

平和と防災を考え、受け継ぐ集いでの体験報告

【1】古川中学校の鳥谷部凜衣です。よろしくお願いいたします。

これから、令和5年度 青森市平和・防災学習事業報告をさせていただきます。



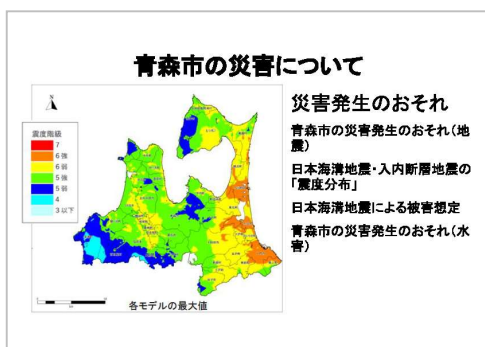
①任命式と事前研修会

私たち10名は、6月23日、青森市平和・防災学習事業の派遣者に任命されました。当日行われた事前研修会では、「魅力発見！青森学」の中から青森の歴史や文化の資料を見ながら勉強したり、青森平和観音像についての動画も見て勉強したりしました。青森市の平和観音像は、柳町交差点の真ん中にあったことや今建立されているのは、2代目であることを知ることができました。



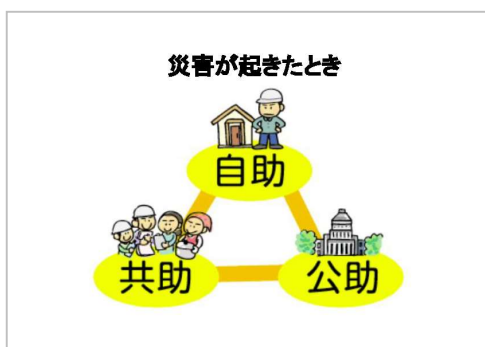
②災害発生のおそれ

青森市のホームページなどでは、日本海溝地震・入内断層地震の「震度分布」を公表しており、地震や水害が起こったとき、想定される被害地域について知ることができました。



③災害が起きた時

災害が起きた時に大切なことがあります。それは、自助、公助、共助です。自助は、自分の身を自分で守る。共助は、地域や近隣の人が互いに協力し合う。公助は、国、県、市等の行政、消防機関による救助・補助等です。災害時の被害の拡大をある程度、抑える事ができますが、公助の活動にも限界があり、自助と共助の防災活動も重要になってきます。自助、公助、共助は、いざ災害が起こった時に対応するのではなく、災害のない日頃からそれぞれがそれぞれの立場で備えることが大切だと思います。私は、備えあれば憂いなしという言葉について実感することができました。



【2】沖館中学校の熊谷明歩です。よろしくお願いいたします。

④青森市平和祈念式典

私たちは、7月28日、青森市平和祈念式典に参加しました。そこで、西市長や青森市遺族会会長の千島卓様の追悼の言葉を聞き、涙を流しながら折り鶴を献上する方々を見て、青森で空襲が起こったときのことが何十年たった今でも心に残っていることが分かりました。



⑤歴史資料室工藤室長のお話

私たちは、この日、歴史資料室の工藤室長からたくさんのお話を聞きました。青森空襲は昭和20年7月28日に起き、犠牲者が1,000人を超え、多くの命が犠牲になってしまったことに驚きました。また、青函連絡船が爆撃されてしまったため、日本のエネルギー供給源も断ち切られてしまったとのことでした。



⑥青森空襲資料展示室

青森空襲資料展示室に展示されていた写真や遺品を見に行きました。左は焼夷弾で火傷を追った生後41日目の女児のシャツの写真で、右は高熱で癒着した食器の写真です。どちらも元の形が分からないくらい変形してしまっています。私たちはこの遺品を見て青森空襲の残酷さと恐ろしさを知りました。



⑦青森製氷株式会社

皆さんは、青森製氷株式会社を知っていますか。実は、ここは青森空襲で焼け残った建物の1つなのです。今も当時の空襲でできた焼け跡が残っています。

青森製氷株式会社の他にも焼け残った建物がありますが、空襲直後とは違い、現在はとてもきれいな外観になっています。



【3】西中学校の**橋本悠理**です。よろしくお願いいたします。



⑧東中学校避難所運営訓練

私たちは、7月29日に東中学校の避難所運営訓練に参加しました。この訓練で、災害に対する取り組みや、避難した際の行動を学ぶことができました。

⑨災害グッズを備えているか？

さて、災害グッズについて準備していますか？

⑩災害グッズ

いざという時に防災グッズを備えておけば、災害に対応することができます。家庭で非常食や、毛布、防災グッズを準備している家庭もあると思います。しかし、準備をしていない家庭もあると思います。準備をしていなくても、すぐに用意できる防災グッズを2つ紹介します。

⑪ゴミ袋で作るポンチョ

もし万が一、災害によって服が使えなくなり、季節が冬だったらどうしますか？ 寒い中、体温を上げるための服がないと、段々自分の体温が下がり、生活に支障が出るかもしれません。そこで、1つ目はゴミ袋で作れるポンチョです。用意するものはゴミ袋とハサミです。まず、ゴミ袋を用意し、切り込みをいれます。次に、ゴミ袋を羽織り、胸元で紐を結びます。これで、ポンチョは完成です。このようなポンチョが2、3分で作ることができます。ゴミ袋の大きさで様々なサイズが作れるので、とても便利です。

⑫火を起こす

次に、もし皆さんが災害で電気やガスが使えなくなったらどうしますか？ 火がなければ、暖を取ったり食事が取れなくなったりするかもしれません。そこで、2つ目は、非常時に役立つ火を起こせる方法です。まず、9V電池の+-の極が並んでいる部分をスチールウールに擦り付けます。次に、火種が起きるので、火種があるうちに他の可燃物に火を移します。これで簡単に火起こしすることができます。

【4】沖館中学校の小倉大翔です。よろしくお願いいたします。

⑬釜石東中学校の校舎

さて、釜石市での学習について報告します。まずこの写真を見てください。平成23年3月11日の東日本大震災の津波によって、釜石東中学校の校舎は悲惨な姿になってしまいました。震災前は、活気ある街並みが広がっていました。震災後の鶴住居地区全体も無惨な状況になってしまいました。皆さん、この後、どうなったと思いますか？



⑭釜石鶴住居復興スタジアム

この写真は、釜石東中学校と鶴住居小学校があった場所です。この校舎の跡地に、釜石鶴住居復興スタジアムがあります。日本でラグビーワールドカップが開催されると決まってから、わずか約1年でスタジアムに生まれ変わりました。スタジアムは、とてもシンプルで、照明もなく、自然を感じることができます。ところで、皆さん、なぜ釜石市にラグビーのスタジアムが建設されたと思いますか？ これには釜石市の歴史が大きく関わっています。



⑮ラグビーのまち、釜石

それは、釜石市は、ラグビーがとても強いのです。全国大会を7連覇したラグビーの強豪チームが釜石市にあり、昔から釜石市は、魚と鉄とラグビーのまちとも呼ばれています。その街の特色を復興に活かしました。



⑯釜石鶴住居復興スタジアムの秘密

釜石鶴住居復興スタジアムは、「自然と調和したスタジアム」をテーマにしています。このスタジアムは多くの木材を使っています。また、芝が西洋芝であり、層を重ねることで水をまく回数や植える回数が圧倒的に少ないことが特長です。この自然に優しいスタジアムには、SDGsを感じることができますね。さらに、災害の備えに力を入れています。このスタジアムの周りには、山道を通り、逃



げる道もあります。そして合計220トンもの水の備蓄があります。東日本大震災の津波で、ほぼ全てが流されてしまいましたが、2019年にワールドカップが開催され、今では、釜石の復興の象徴となっています。

【5】東中学校の三上飛真です。よろしくお願いいたします。

⑰釜石の奇跡

釜石市にあるいのちをつなぐ未来館を訪れ、スタッフの方からお話を聞きました。釜石市の死者・行方不明者は927名。公民館として使われていた防災センターに196名が避難したにもかかわらず、162名が犠牲になりました。犠牲者が出た理由の一つに、「防災センターなら大丈夫」という思い込みがあることを聞きました。思い込みは危険、これも教訓の一つだと学びました。しかし、奇跡が起きたのです。釜石の奇跡です。



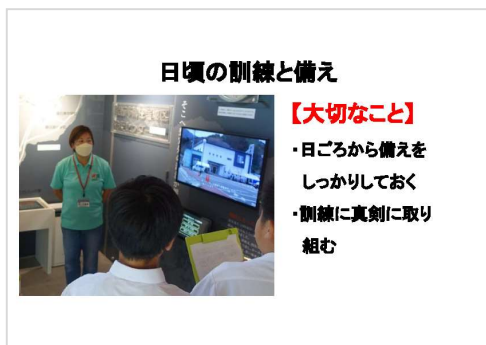
⑱日頃の訓練

それは、釜石東中学校と鶴住居小学校での出来事です。ここにも大きな津波が押し寄せました。津波が押し寄せたにもかかわらず児童生徒の生存率は99.8%でした。釜石東中学校の生徒は震災後すぐに避難を始め、自主的にとりなりの鶴住居小学校に通う児童の手を引いて海拔44mの高台にまで避難しました。この中学生が行った行為が、「釜石の奇跡」として賞賛されることとなりました。実はそれは、奇跡ではなく、震災前からしっかりと地域で避難訓練を行っており、そのとおりに行動しただけなのでした。



⑲日頃の訓練と備え

いのちをつなぐ未来館のスタッフの方のお話を聞いて、大切なことが2つあると思いました。1つ目は、日頃からの備えをしっかりとしておくこと。2つ目は、普段学校や地域でやっている訓練に真剣に取り組むことです。この2つのことを大切に、自分の命は、自分で守ることを意識したいと思います。



【6】油川中学校の奥崎莉生です。よろしくお願いいたします。

⑩釜石情報交流センターPIT

私たちは、釜石情報交流センターPITで釜石市の戦争被害について聞きました。皆さん、艦砲射撃という言葉聞いたことはありますか？ おそらく知らない人が多いと思います。

⑪艦砲射撃

艦砲射撃とは、船が搭載している大砲で砲撃することです。釜石市は「サウスダコタ」と呼ばれる200mもの大きな船による艦砲射撃を受け、大きな被害が出ました。

実は釜石市だけが2度の艦砲射撃を受けました。それはなぜでしょうか。当時の釜石市は大きな製鉄所がたくさんあり、その製鉄所が日本の産業の中心となっていました。そのため、艦砲射撃の対象となり、攻撃されて大きな被害が出ました。

⑫艦砲射撃による被害

2度の砲撃による被害は、被弾数計5,346発、死者と行方不明者を合わせて1,035人ととても大きなものでした。青森市と比べてみると、青森市は空から攻撃され、釜石市は海から攻撃されました。攻撃を受けた手段は違いますが、どちらも1,000人以上もの人が被害にあったという共通点があります。



艦砲射撃の被害

艦砲射撃の状況		米(戦艦3 洋艦2 駆逐艦?)	
艦砲射撃の被弾数(英(+ 重巡洋艦2 駆逐艦3))			
16インチ砲	8インチ砲	5インチ砲	計
7月14日	802	728	1,035
8月9日	803	1,392	5,866
計	1,605	2,120	1,621
5,346			
人的・物的被害数			
全焼全壊破損死亡罹災重傷軽傷			
7月14日	1460	163	897
8月9日	1470	117	214
小川	8	6	216
小幡野	4	113	182
計	2,942	399	1,509
1,035			

- 被弾数計5,346発
- 死者計816人
- 行方不明者計219人

【7】古川中学校の平野陽留昂です。よろしくお願いいたします。

⑬佐野さんの戦争体験談

釜石市情報交流センターPITで、実際に戦争を体験した佐野さんから戦争体験談について聞きました。

⑭戦争体験談①

1番不安だったのは、戦争の様子が分からないため外に出ることができないということです。この



戦争体験談①



戦争体験談②



戦争体験談を聞いて



ときの移動手段は、木炭バスだけでしたが、佐野さんは、バスに乗れず何日も歩いたそうです。いつ攻撃されるか分からない中の移動は、とてもこわかったそうです。

②5戦争体験談②

この当時は、国民総動員の戦時体制であったため、この体制下では、僕たちのような中学生も動員され、中学生は言いたいことが言えず毎日が労働作業だったそうです。そして食料の配給はだんだん少なくなっていったため、鍋にくっついた米などを食べて空腹を満たしていたそうです。

②6体験談を聞いて

佐野さんの話を聞いて、僕はもう二度と戦争を起こしてほしくない、誰も幸せにならないと思いました。戦争によって命を落としたり、苦しんだりした人もいれば、その遺族の方もいて、このような被害にもう二度とあってほしくないと思いました。

【8】西中学校の岩淵蓮時です。よろしくお願ひいたします。

釜石市郷土資料館



②7釜石市郷土資料館

私たちは、釜石市郷土資料館を見学し、釜石市の戦争当時のものを見てきました。

②8日の丸と千人針

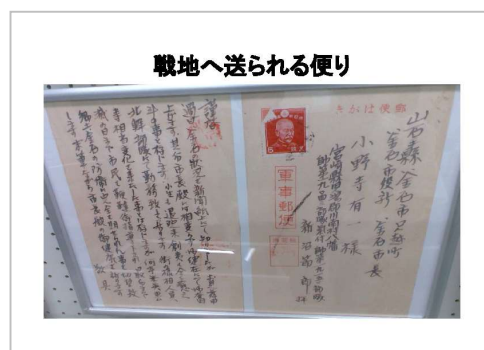
この写真を見てください。この写真は、日の丸と千人針の服です。戦地へと向かうことになった男性は、日の丸や千人針などを身に着け、戦地へと赴いていきました。日の丸にはたくさんの人々のメッセージが書かれている他、一番上には戦地へと向かう兵士がいつまでも無事であることを願って、武運長久と書かれていました。兵士たちはこれらのものを身に着け、誇らしげに戦地へと向かいました。しかし、日本の戦況は悪化し、戦地へ赴く兵士たちの年齢も徐々に下がっていき、最初は20歳以上だったものが、昭和19年には17歳以上に引き下げられました。

日の丸と千人針



⑳軍事郵便

この写真を見てください。この写真は軍事郵便です。戦時下で軍事郵便は戦場に送ることができる唯一の手段で、生存確認の意味も持っていました。釜石市には他の県からもたくさんの軍事郵便が市長宛に送られてきていたそうです。軍事郵便は兵士たちのもとにも届けられ、兵士たちは届くのを楽しみにしていたと言います。一方、戦地からも郵便は送られており、地方を懐かしむ内容が多かったようです。



【9】油川中学校の三上瑠那です。よろしくお願いします。

㉑釜石市戦没者追悼・平和祈念式

私たちは、釜石市の中学生の方々と、釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加させていただきました。式では、釜石市平和都市宣言を唱えました。この都市宣言は、昭和34年3月24日に議決したそうです。私は、「永久の平和都市たることを決意し宣言する」というフレーズが心に残りました。青森市にも平和都市宣言がありますので、皆さん、後ほど確認してください。



㉒中学生の交流

次に、中学生同士の交流が開かれました。私たちの活動「違い・共通点を学ぶ」、「実際のものやお話などから、多くのことを学ぶ」ことを紹介しました。釜石市の中学生からは「語り継ぐ」、「不撓不屈の精神で、平和な未来を創造していきたい」と紹介されました。どちらも共通して、「平和」を目標にしています。

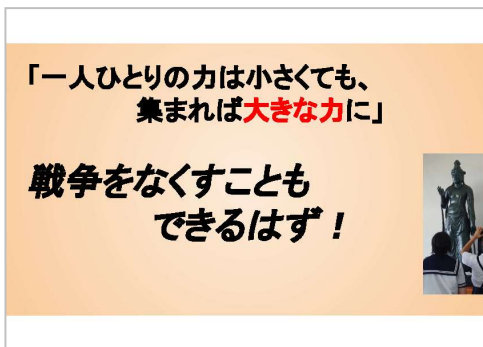


㉓青森市と釜石市の比較

ここで、青森市と釜石市を比較してみました。共通点は、両市とも「平和都市宣言があること」、相違点は「青森は空から、釜石は海から攻撃を受けたこと」などです。平和祈念式の中で、「翳^{かげ}った太陽」という歌の献唱がありました。どちらの市も平和や更なる発展を祈っているのは同じだと思います。



【10】東中学校の福土小和です。よろしくお願いいたします。



③平和・防災学習事業を通して

私は青森市と釜石市の戦争の様子を見学して、何もかも破壊してしまう戦争がますます恐ろしくなりました。人や物だけでなく、「当たり前」さえも壊してしまうと知り、実際に体験していないのに息苦しくなりました。でも、このような戦争をもう二度と起こさないように、過去から学んで、もっと平和にしたいと心に強く思いました。

釜石市は東日本大震災の津波による被害も多く受けました。しかし、鶴住居復興スタジアムをはじめ、復旧・復興の力が凄まじく、「不撓不屈」の精神で誰もが安全に生活することができる街を取り戻しました。

被害を受けた方々だけではなく全員が、先の大戦や東日本大震災で多くの尊い命が失われたという事実、それでも支え合い、ともに協力しあいながら、復興に向かって歩んできたという事実を忘れてはいけません。また、実際に被害を受けた方々の高齢化が進んでいる今、私たちが平和を受け継いでいく必要があります。受け継いでいくためにも私たちが先の大戦や東日本大震災について学び、知識を身に付けることが大切だと思います。戦争を止めるために私たちにできることは何でしょうか。一人だけでできることはとても少ないでしょう。でも、全員で取り組めば大きな力となり、他の人にも伝えることで更に大きくなる。この連鎖が続いていけば、やがて世界まで広がり、戦争をなくすことができると思います。だいぶ夢みたいな話をしました。確かにこれを実現させるのはとても難しいです。でも、行動してみなければ何も変わりません。

最後に、今回このような機会を与えていただき、たくさんの方に気付かせてくれた西市長、そして今回の事業で出会ったすべての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した小学生の感想

油川小学校 6 学年児童のアンケートより



○戦争は一瞬にして人の命を奪うということが分かって、戦争というものが身近にあるだけで怖いと思いました。震災も戦争と同じでいつ来るか分からないし、一夜にして人の一生を奪うということが分かりました。防災グッズや避難場所を家の人と確認することが大切だと思いました。

○戦争が起こっても別に気にしていなかったし、他人ごとのように思っていたのですが、今回の話を聞いて、自分や友達や青森県が戦争に巻き込まれてたくさんの死者が出ると考えるだけで怖くなりました。昔も戦争が起きて、1,000人以上の人が亡くなってしまったと聞いて怖かったです。戦争なんてなくなってほしいし、もうこれ以上死者は出したくないです。

○今の世代の人は、あまり戦争や空襲を知らないけれど、78年前には今住んでいる青森で莫大な被害を受けたことが分かり、戦争の悲惨さや恐ろしさを自分自身が体験したかのように感じました。また、釜石市に派遣された中学生のみなさんの発表で、津波（災害）の恐ろしさも改めて分かりました。これからの暮らしで、「災害対策をしっかりとる」「戦争や災害のことを理解する」「いざというときの避難場所を頭に入れておく」などの目標を立て、実行していきたいと思いました。

○平和と防災について改めて考えることができました。戦争や災害が起こったときの人たちの苦しさ、大変さを改めて理解することができました。最初のスライドの写真やその当時のものなどを見て、二度とそんなことがないように、今自分たちでできることを考えながら、これからも生活していきたいと思いました。

○僕は、戦争はテレビでしか見たことがなく、あまり身近なものだとは思っていませんでしたが、僕が育った青森でも戦争があったという事に驚きました。また、東日本大震災のような大きな地震は体験したことがないけれど、いつ地震が来るか分からないので、平和を願うだけではなく貢献することが大切だと思いました。

○「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」の発表で、「攻撃した方にも大切な人がいて、攻撃された方にも大切な人がいて、それはどちらも大切な人を守るための正義であって、正義と正義がぶつかって戦争は起きている」という話を聞き、国同士だけでなく友達同士でも意見を納得がいくまで話し合わず、お互いを理解していない状態で争いが起こっていると考えました。自分も相手と喧嘩しそうになったら、相手の意見を聞いて、自分も相手も納得いくような話し合いをしたいと思いました。



平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加した**中学生**の感想

油川中学校・各中学校代表生徒のアンケートより

○私は、釜石市への派遣生徒による報告を聞いて、「過去のことを知り、これからをより良いものにする」という言葉が心に残りました。過去のことには変わらないから、それを踏まえてこれからを良くする。それを、これからの生活でも意識していきたいです。戦争をもう二度と繰り返さないように、自分が平和に貢献できる人になりたいです。



○戦争は多くの尊い命を奪うだけでなく、その後が続いていたであろう命も奪ってしまうものだということが分かりました。だから私はもう二度と戦争が起きないでほしいと思いました。この集会を通して学んだことを生かし、平和と防災に貢献し、志を持ち挑戦する未来の一員として生きていきたいです。

○今まで戦争と聞くと一番に思う事は「悲しいもの」でした。しかし、今日の集いで戦争は「とても残酷なもの」だと分かりました。戦争は、仲間・家族だけでなく関係のない人たちまで巻き込まれ、命が簡単に奪われていくこの世で最も恐れるべき戦いだと思いました。現在、戦争を経験した人は少なくなっていますが、戦争を過去で起こった事だと終わらせるのではなく、今や未来の人たちにどんなものだったのか知らせることがとても大事だと思いました。私はこれからも「戦争」を深く考えていきたいと思いました。

○今回、平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加して、釜石市に派遣された生徒の発表を通してたくさんのことを学ぶことができました。戦争の恐ろしさ、青森市と釜石市の共通点や異なる点、震災が起きたときの行動など様々な役立つ知識を学び、戦争は悲惨であり命を奪う恐ろしいものだと改めて感じました。戦争は「他の国のことだから大丈夫」と思ってはいけません。今の時代、いつ自分の身に起きてもおかしくない人災だと、常に意識して生活することが大切だと思います。今回学んだことを、家族や友達に語り継いで、世界の平和に繋げていこうと思います。



○戦争は、あっても誰も得のしない無駄なことだと思いました。今、日本に戦争がなく平和なのは当たり前ではなく、自分の前に生きていた人たちの頑張りの証(戦った証)だと分かりました。自分はその頑張りの証をもらって生きているわけで、自分で今を作っているわけではないので、もう少し地域に貢献したり、誰かのためになれるように生きていきたいなと思いました。

○今回の集いでの報告を聞いて、祖母から聞いた戦争の話を思い出しました。その話を聞いたときは、私はまだ小さく、話された内容もほとんど記憶にありませんが、一つだけ覚えていることがあります。それは「怖かった」ということでした。この言葉がいまだに忘れられません。この祖母の怖かったという気持ちが、今の人たちには体験もしていないので分からないし、伝わらないと思います。しかし、これまでにあった悲惨な戦争や災害などをなかったことにはせず、しっかり受け止めて、向き合い、これからにつなげることが大切なのではないかなと思います。

○私は自分の祖母から青森空襲について聞いたことがあります。祖母は「一面真っ赤だった。まだ幼かったけれどはっきり覚えている」と言っていました。それ以上語らない祖母を見て、私は戦争の恐ろしさを感じました。今、私たちが当たり前として生きているこの日々は誰かの望んでいた理想であり、戦争を経験した先人たちの願いです。戦争は多くの命を奪い、家族を引き裂き、残された人の心身を深く傷つけます。二度と人類の過ちを犯さないよう、私はこの過去から目をそらさず次世代に語り継いでいきたいです。

○今までは、戦争や平和についてあまり考えることがなかったけれど、今回の集いを通して、みんなが安心して暮らせることのありがたさを実感することができました。また、これから戦争が風化していくことのないように、戦争を体験した方たちの思いを受け継いでいかなければならないと強く思いました。これからの生活では、幸せに暮らせていることを当たり前だとは思わず、もっと戦争や平和について学んでいきたいと思います。

○東日本大震災発生時、私は2歳でした。震災の記憶はほとんどありません。この集いは、被災者の話や資料を見聞きして震災の悲惨さをより多く知る良い機会になったと思います。これから、いつ災害が起こるか分からない未来で安全に過ごすためにも、集いで学んだことを思い出し、周りに広めていきたいと感じました。



○私は、先生方や派遣生徒の皆さんの発表を聞いて、「戦争の恐ろしさを理解するだけでなく、二度と起こしてはいけないことだと語り継ぎ、これまでの悲惨な出来事を忘れない」ことが大切だと思いました。身近なことについて考えると、私たちができることは「災害や戦争について知ったことを共有すること」や「思いやりの心を持ち身近な紛争を起こさない」ことだと思います。私も平和に貢献していきたいです。

○平和と防災を考え、受け継ぐ集いに参加してみて、やはり戦争というものは起きてはいけないものだ改めて考えさせられました。そして空襲を受けた青森市に住んでいて、この集いに参加したものとして、まずは身近なところでもいいからそのことを伝えていくということが重要だと思いました。戦争を経験して受け継ぐ人が非常に少なくなっている中で自分たちにできることは、その人たちに話を聞いて学びそれをいろんな人たちに伝えて行くことだと思います。学んだ一員としてこれからどういう行動をするべきか、考えていきたいと思います。

3 活動を振り返って

釜石市派遣中学生 10名の感想

自分たちが体験した平和と防災に関する学習をまとめ上げ、多くの聴衆の中で、令和5年度青森市平和・防災学習事業についての発表をやり遂げた派遣中学生の皆様へ、これまでの活動を振り返って感想をひと言ずつ伺いました。

古川中学校 平野 陽留昂

釜石市に実際に行き、釜石市での悲惨な出来事や東日本大震災での被害がどのくらい出たのかについて、青森市と比べることができたのでとてもいい勉強になりました。これからは青森市と釜石市の戦争や震災での被害を忘れずに語り継いでいこうと思います。

古川中学校 鳥谷部 凜衣

研修会などでは、青森市の歴史や空襲のことを深く学び、実際に街中に学びに行き、更に青森市の事を学べました。釜石市では、鉄の歴史館で鉄の歴史などを学んだり、釜石市戦没者追悼・平和祈念式に参加し、「翳^{かげ}った太陽」などを聴いて心に響きました。釜石市の生徒との交流会では、艦砲射撃の被害や、実際に戦争を体験した方の体験談を聞き、また、紙芝居も見て今後についての参考になりました。釜石市の戦争被害について詳しく学び、青森市と釜石市の共通点や相違点が見つけられて良かったです。文化祭での発表も頑張りたいです。

沖館中学校 小倉 大翔

釜石市に訪問し実際に体験した人たちの話を聞くことで、改めて戦争の恐ろしさを体感することができました。防災では、間違った行動をしてしまうだけで、命を簡単に落としてしまうことなどが分かりました。僕はみんなに生きてほしいので正しい行動を伝えていきたいです。



沖館中学校 熊谷 明歩

私は、この事業を通してあまり身近に感じていなかった戦争が、私たちが今住んでいる青森でも起きていたことを知ってとても怖くなりました。戦争を経験した人が減っていく中でも、これからの未来を生きていく私たちが、もっと戦争について深く学んで次世代に伝えていくことが大切だと分かりました。そして、今日の集いで今まで私たちが学んできたことをたくさんの人に知

ってもらい、これから自分たちがどうすれば良いのかを考えてもらうことができたので良かったです。また、発表をした私たち自身も平和や防災について改めて考える事ができ、これからは事業で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいと思いました。これから、平和や防災について関心を持ち、少しでも貢献しようと思ってくれる人が増えるようにしたいし、自分自身もいつ何が起ころうとも良いように、日々生活していきたいです。

油川中学校 奥崎 莉生

防災を行うことの大切さや命の大切さ、また、平和の尊さについて深く学ぶことができました。青森市が空襲で、釜石市は艦砲射撃でどちらも大きな被害を受けたことだけでなく、僕たちが平和を受け継いでいくことが必要であること、そして戦争をなくすために、災害で亡くなる人をなくすために、小さな一歩から踏み出してみることが大切であるということに気付くことができました。平和で安全な世の中を実現させるために、僕にできることをしっかり考えてみたいと思いました。

油川中学校 三上 瑠那

今回の事業を通して、平和とはなにか、また青森市や釜石市の防災への取組を深く知ることができ、次世代へつなげる第一歩になればいいなと思いました。もっとたくさんの方々にこの事業で学んだことを伝えていきたいです。



西中学校 岩淵 蓮時

今回の事業を通して、新たな仲間と共に多くのことを学ぶことができました。実際に現地に行ってみないと分からないことを学ぶことができたため、とても良い経験になりました。事業を通して学んだことを伝えることができうれしかったです。この経験を活かしてこれからの平和や防災に貢献したいと思いました。



西中学校 橋本 悠哩

今回の事業に参加し、青森市が、今の平和な街からは想像できないような焼け野原になっていた事や、たくさんの犠牲者が出ていたことに驚愕しました。また、東日本大震災による津波や地震による災害で、たくさんの方が亡くなり、建物が津波によって飲み込まれ、強い地震で倒壊した建物があたりに広がっているという風景が、昔にもあったことにも驚きました。

釜石市副市長から、被災した21の集落の話の話を聞きました。波に飲まれ、打ちのめされた集落を復興するため、それぞれにまちづくり協議会をつくり、「改善点を見つけ、どのように工夫し

たら、よりよい生活ができるか。」という被災者の意見をまとめる努力をされたことが分かり、心に響きました。この事業で学んだ震災の恐ろしさや防災、平和について周りの人に語り、伝えていきたいです。

東中学校 三上 飛真

東日本大震災の影響は、自分の住むところだけでなく、同じ東北地方の他の県でも影響があったことなのだと改めて感じました。そして戦争は悲惨で、たった一つの爆弾や行動で尊い命が一瞬でなくなり、大勢の人が悲しむと深く感じました。釜石市と青森市の共通点や、相違点を見つけ釜石市と青森市の歴史をこれまで以上に知ることができました。

東中学校 福土 小和

青森市での研修から、みんなが積極的にメモを取ったり質問したり、学びたいという気持ちが見て取れました。釜石市に研修に行ったときも不安があったと思いますが、あいさつやお礼の言葉などがしっかりしていて、さすが代表だなと思いました。そのような姿勢は、今日の発表にも現れていました。これだけは自信を持って言えます。今までで1番良かったです。今回の事業に参加させていただき、本当にありがとうございます。発表で少しは先生方に恩を返せたかなと思います。このメンバーと別れてしまうのは悲しいですが、まとめ作業も頑張ります。



【編集後記】

この度、青森市平和・防災学習事業として、学習活動の報告書を完成させることができました。限られた時間の中で、派遣中学生が力を合わせて、全力で本事業に取り組んだ成果が本報告書にまとめられています。本事業のため、派遣中学生10名を引率し、報告会の発表をとりまとめた油川中学校の元木教諭をはじめ、派遣校の皆様、そして事業にご協力いただいた多くの方々の温かい支援に深く感謝申し上げます。

そして、本事業の派遣中学生の受入先である釜石市役所の皆様には、釜石市内で様々な学びの場を準備していただき、御協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

今回の事業を通じて交流を深めた釜石市の中学生の皆さんとは、今後も継続して交流を深めていければ幸いです。

改めて、本事業に関わっていただいたすべての方々へ心より感謝申し上げます。



東日本大震災からの復興のシンボル「釜石鵜住居復興スタジアム」にて

令和5年度青森市平和・防災学習事業 報告書

発行：青森市総務部総務課

所在地：〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号

電話番号：017-734-5042

E-mail：somu@city.aomori.aomori.jp